



## 全国調査結果に基づく学習指導の改善とは？

2月8日(木)、教育センターで開催した、**小学校算数研修会**では、講師に福岡教育大学 教育総合研究所 准教授 **礒部年晃先生**をお招きし、「**全国学力・学習状況調査の結果に基づく算数科の授業の改善・充実**」という題でご講演いただきました。礒部先生は、前国立教育政策研究所学力調査官 兼 教育課程調査官で、小学校算数を担当されていました。

講演の概要と、参加された先生方の感想を以下に紹介します。



【講師の礒部先生】

### 講演のポイント

#### <全国調査の問題に込められたメッセージ>

- 全国調査のB問題は、「観察・把握」「整理・選択」「筋道・反省」「解釈・表現」の4つを作成の基本理念としています。例えば、「整理・選択」では、問題を解決するために必要な情報とそうではない情報を自分で選んで、決めて、その根拠もはっきり言える力を付けさせてほしいということです。類推だけではなく、なぜそうなったのか、選び取った訳を説明してほしいということです。

#### <子どもたちの誤答に着目、評価をそろえる>

- 正答に至らなかった子どもたちが、どのように誤っているかに着目しない限り、どんなにすばらしい取組でも力は付きません。例えば、今年の小学校算数A問題[5]は、示された平行四辺形の面積の半分の面積である三角形を選ぶものでした。図形の形状に惑わされて外部に高さがあるものを正しく捉えることができていないのであれば、そのことを指導しなければならないということです。
- 採点する先生によって結果に偏りがありそうな問題を、校内研修などで取り上げてください。実際の子どもたちの解答を見ながら、それぞれが正答になるのかどうか、先生方で検討してください。そうすることで、**評価のレベルをそろえる**ことができ、**授業のレベルをそろえる**ことにつながります。

#### <日常の授業を改善していくポイント>

- 日常の授業を、全国調査のエッセンスを活かして、発問レベルで、板書レベルで、どのように改善していけばいいのか考えてください。まずは、**つまずき(課題)を発見し、分析し、共有**することです。そして、そのつまずきに応じた**指導を具体化し、日常化し、継続化**していくことが大切です。
- 大部分の授業は佐賀県で取組んでいる指導でよいと思われそうですが、課題がある部分について指導改善を行うときに、問題をつかむまでに5分、めあてを確認して一人学びまでに15分などの既存の枠組みでは、うまくいかない場合もあります。その部分は、少し小刻みに、丁寧に指導していく必要があるかもしれません。**つまずきに応じて授業を変えていく**ことも考えていかなければならないと思います。

### 参加者の感想

- 調査結果の分析の仕方は、目からうろこでした。「こういう間違いをしているということは…」という視点で課題を見つける力が大切だと実感しました。学校に帰ってさっそく共有し、実践につなげたいです。
- 説明はだらだらと書かせるのではなく、必要なことを整理して書かせることを実践していきたいです。そして、「いいところに目を付けたね」という声かけで、着眼点に気を付けて授業を行いたいです。
- 子どもたちの「同じです」の言葉のみで授業を進めていたように思います。「何が同じなの?」「なぜこの式になったの?」「□□□ではいけないの?」と、子どもに問いかけてみようと思いました。

# 国語の授業における主体的・対話的で深い学びとは？

2月15日(木)、白石町の福富ゆうあい館で開催した、**小学校国語研修会**では、講師に大妻女子大学 家政学部児童学科 准教授 **樺山敏郎先生**をお招きし、「**主体的・対話的で深い学びの実現を目指す国語科授業の創造**」という題でご講演いただきました。樺山先生は、前国立教育政策研究所学力調査官 兼 教育課程調査官で、小学校国語を担当されていました。

講演では、国語の授業の中で、主体的・対話的で深い学びをどのように実現していくのかということ、全国学力・学習状況調査の問題を例に挙げながら具体的に示していただきました。

講演の概要と、参加された先生方の感想を以下に紹介します。



【講師の樺山先生】

## 講演のポイント

### <主体的・対話的で深い学びとは>

- 「授業づくりのステップ」を活用して「めあて」「まとめ」「振り返り」「書く」「話し合う」というポイントを示した佐賀県の取組みは有効だと思います。これらのことを、**各学校がこれからどのように具体化していくのか**が大切になります。
- 平成27年度小学校国語B問題[3]で、とんち話の面白さを伝えるために、登場人物の会話（「もうよいわしの負けじゃ。」）をどのように音読するとよいのかを話し合っている場面を設定しました。ここでは、登場人物の気持ちの変化を想像しながら声に出して読むときの工夫とその理由を書くことを問いました。
- このような場面で、1つの答えに向かっていく授業を行っているようでは、活用力は身に付きませんよ。子どもたちから考えをたくさん出させて、そこから精査していくのです。
- いろいろな考えが出たけど、ではどうやって読んだらいいのかという深い学びにつれていくところが先生の出番です。一人一人の考えを列挙して、比較して、共通点や相違点を見つけて関連付けて、統合していった、いくつかまとめていくのです。**複数の解から、最善の解へ**と導いていくのです。

### <授業改善に向けてポイントにすべき「力」>

- 大事なことは、「**読書力**」「**記述力**」「**活用力**」の3つだと思います。
- 「**読書力**」についてです。本をよく読む学校の学力は高いということは、実証されています。読書好きの子どもを育てることは、学力向上に向けて遠回りのような気もしますが、実は近道かもしれません。自由な読書を促進しながら、国語の授業と図書室をつなぎ、教科書以外にもいろいろなテキストを用意してください。
- 「**記述力**」についてです。書くときは、条件を与えて書かせてください。例えば、1分で書く、3分で100字以上書く、結論を先に書く、理由を3つ書くなどです。思いのまま自由にざっくりと書かせてはダメです。
- 「**活用力**」についてです。「活用力」というのは、どこでも使える汎用的な能力です。汎用性のある習得となるように、メタ認知能力を育成することが大切です。一単位時間だけでなく単元の出口でも、どのような力が身に付いたかを自覚できるようにしましょう。

## 参加者の感想

- 全国調査や県調査はテストではなく、各問題にはメッセージを込めて作られているということが印象に残りました。これからは、そのことを踏まえて授業改善に取り組んでいきます。
- 教材を教えること、教材で教えることの重要性を学びました。日々の授業を根本的に見直さないといけないと感じました。
- 読書の広がり、可能性は無限であることに興味を持ちました。記述力は例として挙げられたことに取り組んでいきたいと思えます。

